

① 例年 10 月にはそれほど九州に近づかない台風が、なぜ今年は 2 個も来たのでしょうか。記事中の言葉を使って説明しましょう。

太平洋高気圧の勢力が強く、高気圧の縁に沿って台風が進んだため

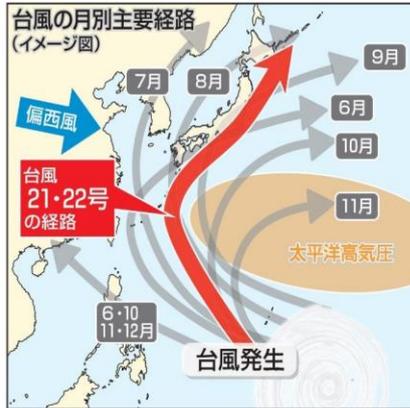
② 10 月の台風の多くは、普段はどんなコースを通るのでしょうか。

日本から離れた太平洋上を北上するか、大陸方面に抜けていく

③ 11 月はどんな天気になりそうですか。記事中の言葉を使ってまとめましょう。

降水量は平年並みか少なくなり、日照時間も多そう。

### 季節外れの台風相次いだ今月



### 投票繰り上げ振り回された県内

季節外れの台風2個が今月下旬、県内に相次いで接近した。10月に台風が九州に近づいたのは3年に1回程度。太平洋高気圧の勢力が強くなり、北上しやすい気圧配置が要因となった」と大分地方気象台。週末と重なったため、衆院選やイベントに影響が出るなど強風と大雨に振り回された1カ月だった。

気象台によると、10月に県内に接近したのは21号(22日)と22号(29日)。九州北部への10月の平年接近数は平均0.3個。10月の台風は日本から離れた太平洋上を北上するものが一般的。原田晴彦観測予報管理官は「今年は太平洋高気圧の勢力が強く、高気圧の縁に沿って進んだため、九州に近づいたのではないかと推測する。台風や九州南部に停滞した秋雨前線の影響で降水量も増えた。県内19観測地点のうち、大分市(620.5mm)や臼杵市(498.5mm)など14地点で10月の記録を更新した。台風1号の接近で、津久見、佐伯両市の離島では衆院選の投票日(22日)を21日で繰り上げた。20日に大分市で予定していた第37回大分県選挙いすまソン大会は21日の接近で中止となった。

11月は移動性高気圧に覆われやすくなり、降水量も平年並みか少なくなる見込み。日照時間も多そう。気象台は「11月以降、11月に県内に接近した台風はない」としている。

(姫野直也)

## 太平洋高気圧勢力強く 縁に沿って九州へ北上

(2017年10月30日付夕刊社会面)